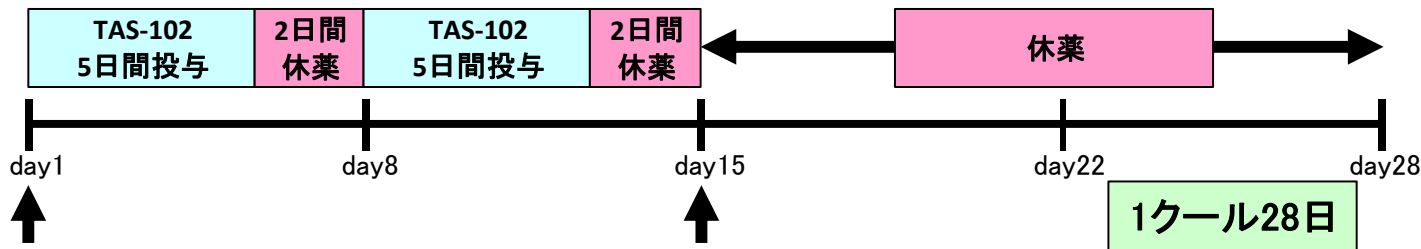


がん化学療法個人計画書

患者の状態により輸液の内容・量及び投与速度を変更する場合があります。

科名	適応がん種	プロトコール名
	治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌	ベバシズマブ+TAS-102
投与予定	休薬を含めて1クール 28 日 施行可能な限り	



Day1・15

点滴静注 5分
生食 50ml

点滴静注 ※90分
生食バッグ 100ml
ベバシズマブ 5mg/kg

点滴静注 5分
生食 50ml

※初回投与の忍容性が良好であれば、2回目は60分間、2回目においても忍容性が良好であれば、以降は30分間

TAS-102 初回基準量 (/body)		1日2回 朝夕食後	5日間連続 経口投与したのち 2日間休薬 これを2回 繰り返したのち 14日間 休薬
1.07㎡未満	35mg/回 (70mg/日)		
1.07~1.23㎡未満	40mg/回 (80mg/日)		
1.23~1.38㎡未満	45mg/回 (90mg/日)		
1.38~1.53㎡未満	50mg/回 (100mg/日)		
1.53~1.69㎡未満	55mg/回 (110mg/日)		
1.69~1.84㎡未満	60mg/回 (120mg/日)		
1.84~1.99㎡未満	65mg/回 (130mg/日)		
1.99~2.15㎡未満	70mg/回 (140mg/日)		
2.15㎡以上	75mg/回 (150mg/日)		

☆TAS-102は空腹時投与を避けること。

有害事象により休薬・減量又は中止する場合には、有害事象の症状・重症度等に応じた減量・休薬の基準があるので注意すること。

「減量基準」に該当する有害事象が発現した場合には、TAS-102の投与再開時において、コース単位で1日単位量として10mg/日単位で減量する。ただし、最低投与量は30mg/日までとする。
(50mg/日を投与する場合は、朝食後に20mgを、夕食後に30mgを投与する)

重度の腎機能障害患者に対しては、投与開始基準を参考に本剤投与可否を検討し、投与する際は減量を考慮するとともに、患者の状態をより慎重に観察し副作用の発現に十分注意すること。

薬品名	申請投与量	計算量	実際の投与量	薬価最小组み合わせ	備考
ベバシズマブ	5 mg/kg	#REF! mg/body	mg/body	内 100mg 0mg 訳 400mg 0mg	
TAS-102	プロトコール登録時のTAS-102 投与基準量は上記表参照		mg/body		記載投与量は1日の投与量

備考	
----	--